

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

南津守小

学校

児童数

59

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.52	19.39	29.88	37.44	37.81	9.97	148.79	19.24	47.58
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.42	15.67	35.58	34.94	31.22	10.15	130.05	10.21	48.61
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

本校の男子児童は、握力・上体起こし・立ち幅跳びの3項目で、女子児童は握力で全国平均・大阪市平均を上回る結果となった。また、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に対し、男子は97.1%（全国平均93.4%、大阪市平均93.5%）、女子は90.5%（全国平均85.8%、大阪市平均77.8%）が肯定的に回答しており、男女ともに全国・大阪市平均を上回った。これにより、本校の児童は運動に対して前向きな意識を持っていることが分かる。運動習慣については、女子は土日に全国・大阪市平均を上回る運動時間が確保されていた。しかし、男子は全国・大阪市平均を下回る運動時間であった。一週間の総運動時間が60分未満の児童の割合をみると、男子は30.3%（全国平均9.8%、大阪市平均11.7%）、女子は23.5%（全国平均17.3%、大阪市平均20%）となり、運動を極端に行っていない児童が多いことが明らかとなった。その要因として、休み時間に外で遊ぶ機会が少なくなっていることが課題とあげられる。多くの児童は休日に習い事で体を動かしているものの、日常的な自主的な運動習慣の定着が十分とは言えない状況である。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校では、児童の体力向上と運動習慣の定着をめざし、体育科の授業や休み時間を活用したさまざまな取組を行ってきた。特に、体育科の授業では、3～5年生において専科による授業を実施し、楽しみながら体を動かせる充実した環境を整えている。また、ボルダリング設備を活用した活動も取り入れ、上半身の筋力や体の使い方を学ぶ機会を提供している。また、冬季には毎朝のなわとび集会や15分休みのかけ足を実施し、体力向上の取組を進めてきた。

今後の取組としては、特に運動習慣の定着をめざし、児童が継続的に体を動かせる環境づくりを推進する。例えば、単元に応じたトレーニングを取り入れ、児童が学習する運動種目に必要な基礎的な動きを段階的に習得できるよう工夫する。運動習慣に関する調査結果を踏まえると平日の運動時間を確保していくためには、運動の楽しさを実感し、主体的に取り組めるような環境づくりに努めていく必要がある。例えば、児童が自ら運動に取り組むきっかけを作るため、学級ごとに運動目標を設定したり、委員会等で短時間で楽しめる運動を紹介したりする機会を設ける。新体力テストの実施種目に関する校内実技研修を引き続き行うとともに、実技指導に不安を感じている教員や若手教員を対象とした研修の充実を図る。授業改善を進めることで、児童一人一人が楽しみながら運動に取り組めるよう支援していく。